

栗熊コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和6年2月8日（木） 午前9時30分～11時30分

場 所：栗熊コミュニティセンター

参加者：17名

担当者：市長、地域担当職員 丸尾（人権課）、地域担当職員 松川（スポーツ推進課）
塩田（広聴広報課）、淵（広聴広報課）

1. あいさつ

（副会長）

本日は、市長をはじめ市の皆さんにはお忙しい中ご出席いただき感謝申し上げます。開催にあたり、沼田会長より挨拶を申し上げます。

（会長）

今日は市長をはじめ市の関係の方、お忙しい中お越しいただき、また、日頃よりコミュニティ事業にいろいろご支援いただき感謝申し上げます。

栗熊地区は世帯数830強、人口は2,400人強。丸亀市の中では島しょ部を除き、人口的には一番小さいところではあるが、面積は市内の中でも上位に位置する。人口は少ないが、今日参加している役員中心にまちづくりに一生懸命励んでいる。ぜひ市の方からもさらなるご支援をいただきたいということで、今日は公園の整備、市道の新設について要望を出させていただく。どうぞよろしくお願いいたします。

（副会長）

続きまして、市長からご挨拶をお願いします。

（市長）

沼田会長をはじめ皆様方には、丸亀市政に対してご理解とご協力、ご支援をいただいていることに、まずは感謝申し上げます。また、地元の廣田議員が今日はお見えになっていることはありがたい、一緒にまちづくりに取り組んでいこうと思っているので感謝申し上げます。

まずは少しだけ、能登の状況について話させていただく。七尾市は50年前のお城まつりに七尾市の太鼓が来られて、すぐに親善都市の締結を結び、毎年子どもたちや観光協会が行き来をしていた状況であった。

1月1日の16時過ぎに地震が起こり、18時過ぎには市の幹部と連絡を取り合い、対応について1日の夜に協議をした。七尾市長には翌日の午前中に電話をしてお見舞いを申し上げた。丸亀市が本気で支援することを伝えて、すぐに職員を3人、今も行っているが常時3人が七尾市の役所の中業務を続けている。3月末までは職員が常に3人、土日も含めてずっと仕事をする形をとっている。4月以降も状況を見ながら、本当にあちらの災害地の方で必要なことをやっていく。建築技師や土木技師、保健師も必要に応じて派遣する準備はしている。もう一つは、市営住宅を二次避難として丸亀市は無料で受け入れる準備はしており、1世帯は来られる問い合わせがあった。

災害が起こった2週目には、丸亀市職員5人と観光協会の方3人がうどんの炊き出しに行った。1日1000食を2日間、こちらから全てを持って行って自己完結できる形で七尾市の駅前で行い、多くの方々に喜んでいただいた。私がびっくりしたのは、うどんの炊き出しは大きな釜を何個か持って行ってお湯を沸かして麺を湯がくが、上水道が止まっているだけでなく、下水道に流すことができない事態で、その大量の水も全部トラックに積んで持って帰って来た。改めて被害の凄さと、職員の気遣いに感心をした。

丸亀市政について、去年の4月にものすごく嬉しいことがあった。私は議員を16年やらせていただいて、いろんな活動をしていく中で、給食費の完全無償化と18歳までの医療費無償化を少しでも早く丸亀市が出来たらと夢に描いていた。その要望もたくさんいただいており、この自分が夢に描いていた施策が、次世代育成基金を50億円積と、プラス約50億円を財政調整基金に積んで出来た。これもひとえに丸亀市民の皆様のご理解と、基金を積めた結果である。

その他今現在で言うと、丸亀で採れた『おいで米』の新米5kgを22歳までの子どもたち全員に配布する。また2月末からは、ガソリン券5000円分を全世帯に配布する。

(コミュニティ1)

もう来た。1週間くらい前に。

(市長)

協会からは2月後半になると聞いていたが、それを知らずに失礼した。その他にもいろいろやっているが、子どもたちに新米を食べてもらって、丸亀で作ったお米は本当に美味しいことを分かってもらいたい。そして出来たら丸亀のお米を買ってもらい、いっぱい食べてもらいたいという思いもあり国の交付金、物価高騰の生活支援の交付金で行った。ガソリンも国の交付金で行っている。このような形で元気なまちづくりに一生懸命取り組んでいる。今日はまた栗熊の皆様方のいろんな意見を聞きながら、より良いまちづくりに一生懸命取り組んでいく。

(副会長)

次に、本日出席されている市の職員の皆様から簡単な自己紹介をお願いします。

(市出席者のから自己紹介)

(副会長)

なお、私どもの参加は、コミュニティの役員が本日10名出席させていただいている。私は本日進行をさせていただく。どうぞよろしく願い申し上げます。

2. 第1部 コミュニティ活動の紹介・意見交換会

(副会長)

本日の進行は、1部に栗熊地区の紹介とコミュニティ活動の紹介。2部で意見交換を行う。テーマは2つある。テーマ1、公園の整備要望。テーマ2、市道の新設要望。それでは、1部の栗熊地区の紹介とコミュニティ活動の紹介をさせていただく。

(副会長)

第1部として、栗熊地区並びにコミュニティ活動の紹介をさせていただく。お手元に第3期まちづくり計画の冊子をお配りしているのであわせてご覧いただきながら、主には前をご覧いただけたら全て入っているのでもよろしく願います。

栗熊地区は、北は讃岐富士の異名を持つ飯野山を臨み、南は高見峰、猫山に抱かれた田園地帯で、香川県の扇の要に位置する。この地区は琴電に平行に走る国道32号を境に、北部は平野部が多く居住区に適しており、南部は山間地が多い土地である。南北、東西とも国道県道による交通の便は大変良いが、中に入ると幅員の狭い道路が多い地域である。また、一部土砂災害警戒区域であるが、総じて災害に強い町といえる。

栗熊地区の概要について、6つの項目から説明させていただく。まず年齢人口の割合については、9年間の推移を見ると少子化傾向が顕著で、特に高齢化率は令和3年度の丸亀市平均よりも9.5ポイント高くなっており、高齢化が進んでいる状況である。

次に人口及び世帯数の推移についてはグラフに示すとおりである。なお令和5年度、先ほど会長からも少し説明があったが、12月1日現在、世帯数831、人口2415人となっている。地区人口は2年間で259人、世帯数も10年間で252世帯減少しており、加速化している状況である。

また高齢化率と出生数の推移はグラフを見ると、高齢化以上に少子化の方が深刻と言える。ここ4年間の出生数の推移を示しているが、急速な少子化が進んでいる現状が窺える。早急な少子化対策があらゆる方面から求められていくと思う。

次に、主な産業から見た特徴のうち農業については、稲作の生産、美味しいお米をたくさん作っている。また、麦、菊、キャベツの栽培も出荷量が多い。商業については、商業施設として大型量販店が4店舗、コンビニエンスストアが3店舗、レストランが4店舗、さぬきうどん店が3店舗あり、小さな町としては商業が盛んである。教育、生活施設については、公共施設はもとより、教育環境や生活環境としても恵まれた充実した地域であるといえる。

次に神社、仏閣、遺跡については、国指定の快天山古墳をはじめ、古墳時代から中世までの遺跡、史跡が多く、讃岐平野のほぼ中央に位置し条里制の最南にある栗熊は歴史的にも特徴的な地域である。

また水利関係としては、3つの河川と主なため池として9か所が点在しており、河川氾濫、ため池決壊等に備えた対策と維持管理が求められている。

それでは、まず栗熊コミュニティのまちづくりについて説明をさせていただく。第2期まちづくり計画では、安心してくらするまち栗熊をシンボルテーマとして、平成29年から令和3年にかけて、各種事業を通してまちづくりに取り組んできた。この間、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各種イベントが中止に追い込まれ、また、日常的な活動も大きな制限があり、住民も不自由な生活を余儀なくされてきたところである。そんな中、コミュニティの各種団体、皆さんの頑張りによって一定以上の活動成果を収めることができた。しかし、いくつかの課題も浮き彫りになってきたところである。

そこで、アンケート結果も踏まえて令和4年度より第3期まちづくりに取り掛かった。令和3

年7月から8月に実施されたまちづくりアンケートの結果について、概要を説明する。

栗熊の生活環境と住みやすさでは、87%が住みやすいと答え、83%がこれからも住み続けたいと答えている。特に高齢者支援については、丸亀市において最も高齢化が進んでいる地区で、高齢化率は38%に達している。今後さらに進み、一人住まいの高齢者や80歳以上の世帯が増加することが見込まれている。

次に、青少年健全育成と子育て支援では、88%の大多数の方が、子育てしやすい環境にあると答えている。特に子どもたちにとって必要なものとして、公園等の遊び場をあげている。地区防災の観点からも、地区住民の声として行政に働きかけていく必要性があると捉えており、今回の要望事項でもある。

また、いきいきと健康で暮らすための事業としては、特に住民が気軽に利用できるようなコミュニティスペースの必要性をあげている。現在、コミュニティセンター内に集まる場として開放しており、住民の憩いの場となっている。

さらにコミュニティ活動では、自治体加入率は72%だが、親世帯が加入しているものを含めると87%と高い数字。コミュニティ活動の活性化を図るとともに、未加入世帯や転入者などが加入しやすい自治会環境に変えていく必要がある。

ここに示しているグラフは、『あなたが思うこれからの栗熊のイメージ』。先ほどのアンケート結果とあわせると、7つのキーワードに集約され、人口減少、少子高齢化が進んでいる中、将来にわたり住み続けたいウエルビーングなまちづくりを望んでいることが分かる。特に、地域の暮らしとして必要な公共施設や学校、公園などの住環境の整備、また地区住民が助け合う中での教育環境の整備や、子ども、女性、高齢者等の見守りや支援など、示しているとおりである。

我がまち栗熊にも少子高齢化や核家族が確実に進んでおり、これまでの家庭や地域社会における生活のあり方が大きく変わろうとしている。こういう変化の大きな時代であるからこそ、誰もが安心して暮らせるためには相互扶助の必要がある。そこで令和4年度より8年度までの5年間の計画で、ふれあいと助けあいのまち栗熊をシンボルテーマとして掲げ、5つの重点項目としてまちづくりに取り組んでいるところである。

5つの重点項目としては、住民アンケートで栗熊が目指すまちづくりとして要望の多かった項目であり、ここに示している1から5になる。栗熊コミュニティでは地域住民の幸せ、ウエルビーイングを追求するため、ふれあいと助けあいの溢れるまちづくりを目指し、コミュニティセンターを活動拠点としてそれぞれの目標に資する具体的な事業を策定し、活動を進めている。

本年度の栗熊コミュニティの組織はこれまでの育成部と体育部を統合し、スポーツ育成部とした。本年度の各部総計人数は170名。地域を思う熱い思いと部員相互のふれあいを通じた交流、なにより地域住民の皆さんに喜んでいただけることを生きがいに感じながら、意欲的に活動に取り組んでいる。

それでは、第3期まちづくり計画のうち、健康で安心して暮らせるまちづくりについての活動を紹介する(冊子にて)。子どもたちの見守りについて、クリックマン見守り隊による付き添い下校、青パト巡回、農作業時などの見守りで子どもたちの交通安全、防犯及び啓発活動を実施して

いる。今後とも見守り隊の拡大など活動範囲とスキームの向上に努めてまいりたい。また、高齢者の介護予防のための健康講座は、体操教室、料理教室を開催。生きがいや健康づくりのため、子どもたちとふれあえるイベントを開催し、愛育班などと連携して企画実施している。

続いて、心豊かな子どもが育つまちづくりについて。人づくりはまちづくりであり、将来一番重要な投資でもある。心豊かな子どもたちが育つまちづくりを目指し、地域で子どもを育てる教育環境を整えることが大切であると考えている。そのために、学校支援、親子活動、親世代の学習会、農作物栽培体験、スポーツイベント、あいさつ運動など、それぞれ関係各々が協力しながら実施を進めている。家庭、地域、学校が連携して、地域の子供たちの健全な育成のため、地域社会と学校が一体化した地域学校協働活動として実施している。

次に、みんなが助け合うまちでは、みんなが助け合い安心して暮らせるまちづくりを目指した活動を展開している。特に喫緊の課題でもある自主防災活動、自治会の振興、助けあい事業、子育て支援を展開している。特に災害による被害の防止と軽減を図るため、防災知識の普及や啓発、防災訓練、救命救急、避難所運営訓練等を自治会や学校と協力して実施している。これは、栗熊地区の防災計画作成のための資料及び全戸に配布した地区防災マップである。さらに、先ほど市長からお話があったが、元日に発生した能登半島地震の状況にも触れながら、県の防災士会事務局長の高橋さんより、地域家庭の安全対策と題して1月14日に開始された講演会の様子である。各自治会より多くの参加者のもと、開催することができた。

次に、にぎわいと活力のあるまちでは、住民がふれあう交流の場を作り、地域のにぎわいと活力のあるまちづくりを目指した活動をしている。第15回栗熊コミュニティまつりが、11月26日に開催された。自治会や各種団体からも実行委員会を選出するなど連携し、より多くの住民が参加するふれあいと交流の場となっている。今年度は天候にも恵まれ、市長をはじめ多くの来賓や、また地区内外から大勢の皆さまにご来場いただき、盛大に開催することができた。約1000名の参加と報告を受けている。特に青空会の美味しいうどんや有志団体による技、さらに綾歌中学校吹奏楽部、農業高校の太鼓が出演し、生徒たちの素晴らしい演奏や迫力ある演技に盛んな拍手が送られていた。1階2階では、絵画、書道、写真、ちぎり絵、手芸等の作品、また園児、児童等の書写や絵画など素晴らしいものばかりであった。また、健康測定や防災関連の備品展示も行われた。さらに3階多目的ホールでは大正琴、読み聞かせ、太鼓、日本舞踊、マジックショー、小学生による縄跳び。エントランスではネイル体験やバルーンアートなど多彩な演出や催しが行われた。地域の皆さまや各種団体、企業等から多大なご協力をいただき、なにより栗熊地区内外からご来場いただいた皆さまのおかげで盛大に終了することができた。来年度もさらに改善を加えながら開催したいと考えている。

この写真は、10月29日に開催された敬老フェスティバルの様子である。今年度、敬老事業として初めての開催で、75歳以上の約150の方がご来場いただき、盛大に開催することができた。また、左側の写真は、9月8日に開催されたまちづくり講演会の様子である。あかまつ牧場の会長の赤松氏による、“地域の農業を考える”と題した講演会である。まちづくり講演会は、3月にも健康講座を開催する予定である。

中央右の写真は、スポーツを通しての健康づくりやにぎわいづくりのためのスポーツイベントやウォークラリーの様子である。

栗熊コミュニティでは、子どもたちを含む地域住民が誰でもいつでも立ち寄れる交流の場として、コミュニティセンター内にアツマロンを令和4年7月より開設している。アツマロンでは、絵画、書道、写真、囲碁、将棋を楽しむ会、スマホ相談室、韓国語教室などの活動を行っている。さらに、無料のドリンクコーナーも設置している。

自然や歴史文化を大切にするまちづくりでは、環境美化、天体観測、歴史文化講演会など、地域の自然や歴史文化を活かし、愛着や誇りの持てるまちづくりを目指した活動を行っている。

最後に、この写真は、住民を対象とした天体観測と、その説明会の様子である。右の写真は、地域の文化財や史跡の現地研修会の様子である。

(副会長)

ここまで、栗熊地区とコミュニティ活動について簡単な紹介をさせていただいたが、何かご質問等があれば。

(市長)

改めて説明を聞いて感心している。一番感心したことは、住民の方々にアンケートを取ったら、住みやすいが87%、住み続けたいが83%。この数字が出るということは、地域でお世話をされていらっしゃる、今いらっしゃる方々がいろいろとご尽力されている賜物だと改めて思った。

また、自治会加入率が72%。丸亀全体では40数%であるので考えられない数字だと思った。自治会加入率がこんなに高いということ、もちろん住みやすいから高いのだが、高い要因があれば教えていただきたい。

もうひとつは、助け合いという言葉が説明の中に何度も出てきたが、この大元というか、自然に出てきたと思うがご指南いただきたい。

あと1点。大型商業店舗が4つあるが、これは誘致されたのか。この大型店舗は何か町として誘致したなどがあつたら教えていただきたい。

(会長)

自治会加入率は、自然とこういう状態に落ち着いている感じである。一昔前は農業中心の地区であるので、共同作業をやっていた。つい最近までは葬儀なども自治会で出しており、その延長線上にある。加入率が高いということは、逆に言えば新規の住宅が少ない。市内ではどんどん帰ってきたり、若い人達が独立して新しく住居を建てたりして、加入率の分母が大きくなる。こちらは親の敷地内に子供が家を建てたりしているが、外部から入ってくる人が比較的少ない。そのため、加入率が昔のまま下がらずに保っている現状である。最近はこちらでも新しい宅地、団地が若干できているが、そういうところはほとんど新規加入されていないので市内と同じだと思う。積極的に自治会加入率を増やしたというよりは、残念ながら徐々に下がってきているが、まだ下がり率が市内に比べたら少ない。そのような状況ではないかと感じている。

大型店舗については、特に誘致したということはなく、ここは交通の便がいい。32号線があるので、スーパーやホームセンターがある。積極的に誘致した経緯はないと思う。あとは皆さんの

方でも補足があれば。私も自分の主観で申しているのです。

(コミュニティ 2)

助け合いの件について、昔からの自治会内での共同作業が残っている。特別な努力をしなくても、農作地帯であるので自治会内で助け合いが当たり前の地区であると認識している。

(会長)

私達が小さい時、数十年前は、例えば稲を収穫した後の脱穀では、1軒で高額な機械を買うわけにはいかないの、何軒かで共同で買って、自治会隣近所で人が集まって共同で脱穀をするなど、そういう風習がずっとあった。ただそれも今はないので、自治会加入率も助け合いも、放っていたらどんどん下がっていく。今助け合いが必要なことは何かというと、防災のときに助け合いをしなければいけない。防災訓練や防災の啓蒙などやっているが、家の家業ではなく災害が起こったときのための助け合いということで繋いでいきたい。

(市長)

よく分かった。

(コミュニティ 3)

加入率 72%は、10年くらい前は 80 何%。それくらい下がってきているが、例えば私は隣に娘夫婦が住んでおり、そこは分母に入っていない。そういうパターンが栗熊全体でかなりある。それを分母に入れなければ 90%くらいいくのではないかと。

(市長)

びっくりするような高い数字である。私は川西町で、元々農村地帯だが一時は 40%まで下がった。共同作業をしていたと言われたが、もうすぐ 3 月の予算議会があるが、次の予算は『協働』というキーワードを頭に入れながら予算編成をしていく。時代も多様化がどんどん進み、いろんなことが複雑になって、日本全体が人口減少に突入し、世界情勢がこのような状況で物価高が進んでいる。そういう中で基本に戻って協働、一緒に働くという協働を全面的に打ち出したまちづくりをする。市民の皆さんと役所が協働する。または企業も一緒に協働していく。いろんな団体も協働していく。これをひとつのキーワードにした予算を議会に提出する段階である。

共同作業が、その後影響が続いているという説明を聞くと、住みやすい、住み続けたい、さきほどの 80 何%の数字もすごいと思った。

(副会長)

少し追加すると、子育てしやすいまちづくりが繋がってきている。栗熊地区は、保育所、小学校、中学校が、今は学校に対する協働活動で地域の皆さんが応援に入っているの、PTAの方々と話をすると、非常に活動がしやすく、親同士も横の繋がりもできていることで、何年たっても繋がっていく。名前を聞いたらどこの誰かが分かる、若い方も顔の見える付き合い。協働というキーワードをいただいたが、そのベースとなる対話、コミュニケーションが取れることがベースで横の繋がりができていると思う。

(コミュニティ 4)

保育所の民営化について、プロポーザルをされているようだが運営してくれる人に、地区を大

事にして欲しいのが一番。今までの助け合いを育んできたことを大事にする保育所にしてほしい。

(市長)

保育所は今言われたような形で無事にできるようにしていきたい。今、子どもの数が減っているので、民営化の方が広く来てもらえるとのことで、公設民営化の形をとらせてもらった。きちんと取り組んでいきたい。話の中にあつた PTA では、丸亀市の PTA 連絡協議会の会長としてもご苦労されたと思う、私も 20 年近程 PTA に絡んできており大変さがよくわかる。

(コミュニティ 3)

先ほどから市長が協力し合う地域であると言われているが、私たちとしては子供を増やしたい。少子化が危惧されるので、地域外から受け入れてでも少子化を解消したい。それだけの地政学的なところであると市長も認識していただきたい

(市長)

しっかりと受け止めていく。

3. 第 2 部 テーマ選択方式による意見交換

(副会長)

続いて第 2 部はテーマ選択方式による意見交換会。テーマとして選択したのは、快適な住環境の整備について。ここからは沼田会長から説明をさせていただく。

(会長)

栗熊地区では地域で子供を育てる環境を整える、まちづくり計画の 5 つのスローガンの中のひとつで、心豊かな子どもが育つまちを目指している。そこで、まちづくり計画策定時の住民アンケートで要望の多かった、子どもたちの遊び場となる公園の整備を要望する。

市の緑の基本計画に、身近な公園の整備を推進する、と記載されている。当地区に 3 公園あるが、いずれも狭いうえに老朽化が著しく、子どもたちが遊べる遊具やお年寄りが休めるベンチもほとんどなく、公園の体をなしているとは言い難い状況である。加えて、都市計画課が公園として整備・計画している公園は、当地区にはない状況である。

要望のポイントとしては、子どもたちの遊び場、地区住民の憩いの場、そして平常時の多目的広場として利活用が可能となるアイデアを活かした公園の整備をお願いしたい。また、公園整備により地区防災拠点として、災害発生時には地区の一時避難場所、救援救護活動等の拠点として整備する意義は大きいと考えるのでよろしく願います。

これ(写真)は地区内の 3 つの市営公園である。写真では立派に見えるが、現場に行くと何もないし、夏場は草が生えており、老朽化が激しくて狭い。遊具やベンチもない。トイレは一部あるが旧式のトイレで、子どもたちやお年寄りの憩いの場となる公園とはいえない状況である。

昨日の新聞で市長と小学生の対談が載っていたが、ここでも自由にキャッチボールなどボール遊びができるような公園を、これがないためにゲームに熱中している子が多いらしいので、ぜひ

子どもたちの意見を聞いていただきたい。

特にお願いしたいことは、公園の施設について栗熊地区は特に遅れている現状にある。市の緑の基本計画では、2026年を目標として整備完了としているが、この状況についてお伺いしたい。どうかいろんな基本計画の進捗状況を踏まえつつ、さらには他地区の整備状況と比較検討いただき、他地区と均衡を図るよう計画的な整備をお願いします。

公園の候補地については、緑の基本計画に記載されている公園整備重点ゾーン、コミュニティの近隣、この建物からアイレックスまでの間、少し西側の辺り。ないしは、綾歌中学校の西側に市有地がある。昔の役場があった場所で、今は消防団の屯所があるところ。駐車場として利用されているみたいであるが、ほとんど空き地状態になっているので、そこを周辺の田畑を買い取り、拡張して公園にしていだければと思う。

(副会長)

ひとつ要望を説明させていただいた。市のご答弁、ご意向やご意見をよろしく願います。

(市長)

3つの公園については写真で見させていただいたが遊具も何もない、公園としての機能がないと把握している。先ほど説明にもあった緑の基本計画の中に、栗熊駅周辺が指定されている。もちろん私としても、公園整備は職員に指示をして、着手していくようにしたい。ただ現状を言うと、私は公園をいろんな所に作っていきたくて常々言っており、飯山南コミュニティの公園が出来上がった。これは私が市長になる前から438号線の絡みで公園を作ることが決まっていた、出来上がった。

私が公園を各地に作りたいというのは、保護者の方々中心に市民の方から欲しいという声を聞いていたのが一番。それと、既存の丸亀市が持っている公園は、ほとんど使われていない、誰もいないのがほとんどで、なぜ使われないかを考えると禁止事項が多いので何もできない。まず、ボール遊びは禁止。野球、サッカーボールも禁止と書かれているところがほとんど。そして花火、バーベキューも禁止など、その他たくさん書いている。禁止になったのは、周辺の地域住民の方から苦情がたくさん出て、行政としてはそういう風に使わないように一つずつやむなくしていれば、そういう形になってほとんど使われなくなった。

対談の際、まず子供たちが言われていたことは、遊ぶところがない。特にボール遊びをすることでところがない。それを解消するにはどうしたらいいかを考えると、飯山南はコミュニティが公園を管理してくれる。市ではなくコミュニティ。市の公園ではあるが、運用内容についてはコミュニティが考える。例えば、ボール遊びはこれくらいならいい、バーベキューや花火もオッケーなど。禁止事項でなければしてもいいので、私としては、そういう公園を作っていきたくて。

そういった中で、郡家地区は子どもの遊び場がなく、公園を作りたいと要望されて、今は土地の買収から始めているところである。コミュニティセンターの近くで、ここなら子どもがたくさん来るだろうという土地をコミュニティの方々にも指定されたが、もちろん土地を持っている方の意向もあるので、なかなか土地を取得できない。何か所目かのところでやっと了解を得られた。ものすごく時間がかかる。

それともう一つが、城南地区。11号線で商業施設もあり、10数年前に調整区域から外れたことによりどんどん色々なものが建ち始めて、今が一番子どもが増えている。そこも、公園を作りたい、この場所が良いという希望があるが、用地獲得の難しさがある。今言ったようなこともあるが、そういった形で栗熊地区も進めさせていただいてよろしいか。

(会長)

一時期に比べたら土地を持って余しているところも多いのではないか。

(市長)

主観ではあるが、私も使用していない田んぼの草刈りばかり一生懸命しており、持て余している。そういった場所があれば。行政はやはり時価、その時の国が示した価格でここまでと決まっている以上の額は出せない。その価格も安い。ただ広い面積になったら税金免除があるが。

(コミュニティ 4)

やはり便利な場所はなかなか売らないのでは。住宅地になるとかそういうことで。

(市長)

ここならたくさん子どもが集まるだろう、保護者が子どもを連れてくるだろうという場所。市長になって進めた2か所は、なかなか決まらなかった現実がある。今は場所が決まって進めるので、予算的な問題で、その2か所にまず投資しなければいけない。

栗熊に作りたかったし、ここは都市計画課の緑の基本計画に入っているので指示するが、あとは予算の問題があるので少し待っていただきたい。今2つを同時に進めないといけない。

(会長)

こちらの方が地価は安いと思う。

(市長)

今話したことは、私が思ったことを全て話した。

(廣田議員)

今言った2か所は、ある程度話をしてみても見込みがあるため提案している。

(市長)

郡家も城南もまったく同じような感じであったが、現実になかなか売ってくれない。難しいところである。

(コミュニティ 5)

公園に、やはり人が来ない。蓮池公園で昼間の天体観測をしているが、親子連れが2~3組来ればいい方。蓮池公園でそれである。

(市長)

蓮池公園はまだ行っている方だと思うが、そんなに少ないのか。

(コミュニティ 5)

こちらに作っても集客が出来るのかという考えもある。やはり禁止するところがネックだと思う。

(市長)

私の近所にあるポリテクカレッジの運動場が市の公園で、子どもが小さい時にボールを投げたら、野球は駄目ですと注意された。広いところで誰もいなかったが、規則だからだめだと。

(コミュニティ 6)

綾川の『やどん公園』はすごい。たくさん人が来ていて警備員がいる。

(市長)

地域で禁止事項を決めていただいて、管理をコミュニティでしていただく。これをご理解していただければ。

(会長)

管理をどこまでするのか。今朝のテレビで、坂出市が公園にロボットを設置すると言っていた。あれはいいのではないか。夜中にロボットが動く。手間がだいぶ省ける。

(市長)

公園で一番困るのは草刈り。今、丸亀市の公園でも、人は来ないが草刈りだけはしなくては行けない。年2回くらいしかしないので、草が茂っている。その辺ももちろん市と協力しながらやっていく。基本はコミュニティのみなさんの管理をのもとにという形で、飯山南の公園が出来上がった。郡家地区は場所が決まった。城南地区も場所がほぼ決まった。次に栗熊かと。

(会長)

3番目か。

(市長)

指示はするが、いつになるかは。要は予算取り。私が市長になって、職員全員が政策集団なので20代30代の職員もまちづくりについてどんどん出すように言っていて、それがたくさん上がってくる。それを11月の予算編成の時、協働がキーワードと言って上がってきていて、26億円オーバーしているので26億円削ってくださいと。またこれを削る政策会議、担当部署とのヒアリングを行うが、一生懸命考えて上げてきているのでなかなかである。予算内でやるのが当然であるので、そういう形でやっている。

(会長)

前向きな回答をいただき、大いに期待している。

(コミュニティ 3)

できるだけ広い公園で、遊具コーナーと多目的広場、簡単なボール遊びができるような公園。東汐入公園、良いなと思ってみているが、あそこまで総面積がなくてもいいが。

(市長)

東汐入公園は港だったのを埋め立てている。土地の買収は本当に時間がかかる。郡家、城南は2年半前に決まってから、まだ土地が買えていない。まずは全体的な予算の計画、それを議会に提出してOKが出て、それで予算編成を組む。今年の春の予算は先ほど言ったようにもう今からは予算を組めない。もちろん補正という形もあるかもしれないが、時間がかかるということは理解いただきたい。

(コミュニティ 3)

子ども達はやはり遊びたい。学校の縄跳びとか昼休みの運動とか見ているとわかる。帰ると閉じこもってスマホ、ゲーム。外遊びができていない。我々の少年時代だったら田んぼでもキャッチボールをしていた。今はそれをしたら怒られる。自然環境の中で遊ぶといってもいろんな面で難しい時代になっている。公園は時間がかかるだろうが、出来るだけ早く。

(市長)

指示は出す。

(コミュニティ 4)

順番には入れて欲しい

(会長)

市内に比べたらこちらの方が買収はしやすいと思う。

(副会長)

続いて、テーマ2の市道の新設要望について。会長から説明させていただく。

(会長)

栗熊小学校及び保育所東側周辺は、駅や商業施設もあり発展の可能性のある栗熊地区の将来を左右する重要な地域である。しかしながら、周辺の市道はどれも道幅が狭く、幹線道路とも繋がっていないため、今は開発するにも許可が出ない状況にある。

現在、栗熊保育所を東西に通る市道馬指北岡線は、拡幅していただけることになった。そこで新たに栗熊小学校北側を東西に通る市道東行末塔寺線との間に、南北2車線の市道を整備していただければ、小学校、保育所、商業施設、栗熊駅から近いこと、同時に通学路の問題も解消できるため、快適な住環境が整い周辺の賑わいに繋がると確信している。

地図をご覧ください。紫の右上がりになっている市道が、今回拡張を進めていただく場所。栗熊保育所から大東川の橋まで拡げていただく。

今回要望するのは、ディスカまなべから塔寺の方に行く道の間を南北に通る道として赤色の部分。今は田んぼなので新設すれば、子どもたちの通学に便利になる。安全も確保される。ゆくゆくは、今拡張予定の市道から南にある旧の32号線までをやっていただければさらに良いが、住宅があるので難しいと思う。とりあえず、赤色を要望したいと思う。

(市長)

市では十数年前、請願道路というものがあった。例えばこの赤の部分のように何も無いところに市道を作る、地元から請願書を出してもらって協議をして新しい道を作る、ということは、昔はあったが、ある時点で新たな道を作ることをやめた。条例ではないが決定事項であり、現状では新規で市道を作るということ自体がない。拡幅に集中し順次やっていっている。

(地域担当職員)

以前建設課にいた時から、新しく市道をつくらないということになっており、地元ではあるが今聞いていて難しいのではないかと思いながら聞いていた。

(会長)

拡幅ということは、その周りに住宅がある可能性があるのですが、田んぼの中に新たに作る方がコスト的には安いのでは。

(廣田議員)

綾歌中学校の体育館を工事しているが、プールとの間の道は中学校の敷地で、あそこは今度市道として整備する。それを考えたら、出来ないことはないのかなど。

(市長)

その状況とは異なる。中学校の間は、道が元々ずっと体育館に通っている。私も議員時代は会長が言われたように、田んぼの中に道を通す方がお金かからないと思って言っていた。しかし行政は条例や規約などの決まりがあると、なかなか変えられない。市長ならできるだろうと皆さんお思いだろうが、できないことはたくさんある。私は市長である以上、決まりを守って公平公正でやらなければいけない。この道も私はいいと思っているが、今は新しい道を作らない、それよりも既存の細い道を広げることに集中すると決まっている。

(コミュニティ 3)

拡げてほしいところはたくさんある。小学校、中学校、保育所、その前の県道 22 号は非常に狭い。小学校で土曜日に行事があったが、その帰り道、駅まで車がひとつも動かない。たったそれだけで動かないということは、将来的に非常に危険な箇所になる。県道を拡げることは簡単にはいかない。細い道を拡幅していただいて、せめて対向 2 車線を。アクセスが西からばかりになるといづれ事故が起きると思う。安全面から、そこは何とか工夫していただきたい。

(市長)

先ほど言われた青い部分は、拡幅する。もう一つは体育館の横の入っていく道をきちんと。

(コミュニティ 7)

保育所の横の道をお願いしたい。

(廣田議員)

家があるのと用水路がある。

(副会長)

基本的に出来ないのであれば、今ある道を拡幅したらいい。

(市長)

今の時点で言えることは、丸亀市は今のところ新道は作らないということ。これが現実にある。

(コミュニティ 8)

大きな災害が来ると言われて、防災訓練を一生懸命している。綾歌中学校は、今度の体育館でも防災に関する施設も含めていただいて大変ありがたい。結局は、綾歌中学校は防災が必要になった時に一つの核になる。その時に一番大切なのは、車がずっと流れる、一方通行が完成する道があること。岡田小学校が新しい校舎にする時、校舎の裏に道をつけて、運動場を通ればどちらでも出られるようにした。ここも新しい道が出来なくても、防災道路等として作っていただければ、綾歌中学校から入って救援物資や人が保育所の横を通過して新しい道を通って東西に出ていけ

る。高松の方へ行く車だけ綾歌中学校から前の道に出す。それから西へ行く人は裏を回るなど工夫はできる。

本当に防災から考えると、絶対に今のままだと大混乱が起きる。特に旧 32 号線と新しい 32 号線の交差点が近いところだから。なので、新しい道は出来なくても防災道路という形ではどうか。車が一方通行で流れることは大きな要素で、天災は無くせないが減災は出来る。大切なポイントだと思う。

(市長)

能登に職員が常時行っており、毎日報告がある。そこから南海地震に対する準備のヒントがたくさんあると思う。今のお話で能登の道路が大変だということを思い出した。言っていることは分かる。

(廣田議員)

市長が言われたこともわかるので、また提案する。

(市長)

今日言われたことは記録して、市の方でも検討はしていく。現時点では今言ったことである。

(副会長)

今綾歌中学校と保育所辺りが工事をしているが、武道館がいずれ無くなるかなど、長期計画についてお分かりであればぜひ知りたい。

(市長)

体育館があったところに市道として整備するということをきいている。県道から東へ体育館の方へ入って行って、少しくランクして、保育所の方へ抜ける。このところを市道としてきちんと整備をしますということは直ちにすることをきいている。

(廣田議員)

栗熊保育所が民営化の方向で進んでおり、新しい用地買収も行っている。しかし、道路が狭く開発許可が今のままでは下りない。なので、あそこを市道にする。中学校の体育館を工事している中で、実際に許可を出すのは丸亀市だと思うが、県から指導がはいったのかどうか、細かい事情はよく分からない。あそこを市道にしないと許可が出せないということ。

(市長)

市道への変更は、登記上変えれば良いが、計画としては、そこをきちんと整備する。

(廣田議員)

歩道をつけるなど、たぶんと思う。

(副会長)

保育所へ行くのも水路の関係や、中学生が自転車で通っているなかをくねくねしながら辿り着く。4時過ぎが一番危なく、坂出線に出るのも交通量が多いので、いつかは大きな事故になると思っている。水路の関係もあるが、やはり走りやすい安全を考慮した道をお願いしたい。

(市長)

今言われたようにします。赤い道については難しいが、保育所周辺については建設課はやると

言っているので順次。

ふたば乳児保育園が土器川を拡げるにあたって移転してもらった。少し南の、昔、市営住宅があったところに国の方で移転をしてもらった。その周辺は市道であるが綺麗になった。

(廣田議員)

良くなるよう以前より提案はしている。

(市長)

ふたば乳児保育園が土器川を拡げるにあたって少し南の、昔、市営住宅があったところに国の方で移転をしてもらった。その周辺は市道であるが、綺麗になった。また、蓬莱橋の架け替えは去年全部決まった。国はすぐにやると言ってくれたが、あそこは県道。県から 30 数億円は出せないで少し待つように言われたが、何度も言ったら知事が分かったと。地元の説明会も終わった。今言われた周辺の安全にはしっかり取り組んでいく。

(会長)

私たちの要望した気持ちも分かっていたでいて、ぜひよろしく願います。

(市長)

この後、国土交通省と Web 会議である。丸亀市は税金で入る額を超えて予算をつけているので、国・県からもらわなければ出来ない。それを私は必死でやっている。

(コミュニティ 3)

栗熊の道路は合併以降何もなし。一つも拡幅もなし。

(市長)

今から良くしていく。

(副会長)

予定時間が参ったので終了させていただく。最後にお礼のあいさつをさせていただく。

本日は公務ご多忙の中、みんなでまちづくり市長と語る会にお越しただいて感謝申し上げます。地域住民が市長と直に話す機会はなかなか無い。短い時間ではあったが栗熊地区、栗熊コミュニティの活動を知っていただくとともに、住民の声として二つの要望をさせていただいた。プレゼンでも触れたが栗熊小学校 4 年生の山下君の話は説得力があった。子どもの視点からも切実な要望であることを十分理解いただいで公園の整備、またまちづくりにかかせない道路の新設は難しいことは十分理解できたので、何らかの方法を考えていただいで、防災道路という観点から設置していただけたらありがたい。市長からざっくばらんにいろんなお話を聞くことができ、力強い回答をいただけた。感謝申し上げます。

我々は、人づくりはまちづくり。幸せに生活できる環境づくりこそが本来のまちづくりであるとコミュニティ同思っている。市長をはじめ各担当の皆様には、この要望に対してクリアすべき課題、特に予算面を含め、実施計画から基本計画、厳しい道のりではあろうと思うがどうか具体的に進めていただけたらありがたい。